

第51回全日本教育工学研究協議会全国大会 茨城つくば大会

つくば市立竹園東中学校 学びのデザイン

公開授業① 9:40~10:30／公開授業② 10:50~11:40

	クラス	教科	単元	授業者名	会場
1	7年	つくばスタイル	環境問題を見つめなおす	室町直樹	第1理科室
2	7年3組	家庭	持続可能な食生活	辻井ほのか	7年3組教室
3	7年4組	技術	情報の技術	永瀬千咲	7年4組教室
4	8年1組 市内2校	数学・遠隔	平行と合同	山田祐見	8年1組教室
				小神野真人	多目的室
5	8年2組	保健体育	剣道	湯原康元	被服室・武道場
6	8年3組	保健体育	バレーボール	大槻維也	体育館
7	8年4組	美術	あかりがつくる空間	武藤望	美術室
8	8年5組	理科	地球の大気と天気の変化	竹町慧	第2理科室
9	9年1組	音楽	ギターに触れて音楽に親しもう	江見智子	第1音楽室
10	9年2組	道徳	好きな仕事か安定かなやんでいる	海老沢祐成	9年2組教室
11	9年3組	社会	財政と私たち	小堆祐輔	9年3組教室
12	9年4組	国語	おくのほそ道	馬込睦美	9年4組教室
13	9年5組	英語	地球市民としての抱負を伝え合おう	藤本美智子	9年5組教室

※8、10、13の学びのデザインが変更されています。

自分たちの生活を見つめ直そう

つくば市立竹園東中学校

- ▶授業者:室町 直樹 ▶校時:2 時間目(9:40~10:30) ▶場所:第1理科室
▶共同立案者:高橋 瞳美、高橋 千重子

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1 【IN】	自分たちの生活に関する資料について、新たな気付きや疑問をもつ。
2 【ABOUT】	解決したい事象を取り上げ、調査活動や実験を通して課題を解決する。 ※生徒は、自分が探究したいコースを選択する。
3 【FOR】	まとめたことを中間報告する。
4 【IN】	新たな問題を見出す。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

環境、歴史・文化、キャリアの3つの視点(12コース)から設定した探究課題を調査や実験などを通して解決し、考えを深めることができる。

単元を貫く問い合わせ(ごみ問題コース)

家庭や学校などから排出されるごみを減らすためには、どうすればよいのだろう。

※ごみ問題以外のコースもそれぞれ「単元を貫く問い合わせ」を設定しています。

単元目標に迫るための手立て

各自が、レギュレイトフォーム(学習計画表)を活用することで、自己調整をしながら探究できるようにする。学習する前の理解と毎時間の振り返りについてポートフォリオを作成することで、自分の考えを可視化し捉えやすくなる。

本時の学習目標

様々な方法で得た情報から、ごみ問題について理解し、それをもとに改善策を自分なりに考えることができる。(A-1 客観的思考力)

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ◎ICT 利活用の工夫 ☆評価
2	<p> 本時の活動内容を確認する。 課題:家庭や学校から排出されるごみを減らすためには、どうすればよいのだろう。</p> <p>【各グループの探究課題例】 ・プラスチックごみの削減 ・生ごみの堆肥化</p> <p>2 他のコースの生徒からもらったアドバイスをグループ内で共有する。</p> <p>3 レギュレイトフォームを作成する。</p> <p>4 探究をする。 【例】 ・堆肥化の実験 ・専門家にインタビュー</p> <p>5 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ループブリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ごみ問題だけでなく、他のコース(※)を設定した生徒と意見交換することで、多面的・多角的に考えられるようになる。</p> <p>◎レギュレイトフォームに実行する内容をチェックし、項目を確認ができるようになる。</p> <p>☆調査や実験から得た客観的な情報から、ごみを減らす改善策を自分なりに考えることができる。(レギュレイトフォーム)</p> <p>○考えを整理することが難しい生徒には、思考ツールを利用するように声をかける。</p> <p>○生徒が探究する方法を選択することができるよう、様々なコーナー(専門家への質問コーナー、実験コーナーなど)を設置しておく。</p> <p>◎スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようになる。</p>

※ 探究する12のコース

【環境】 ①ごみ問題 ②フードロス ③水辺の生物多様性 ④陸の生物多様性 ⑤農業

【歴史・文化】⑥日本のkawaii文化 ⑦日本の色彩 ⑧日本の生活様式 ⑨つくばの歴史 ⑩世界遺産 ⑪世界の文化

【キャリア】 ⑫竹園地区のマーケティング

第7学年 家庭 持続可能な食生活を実現するため

つくば市立竹園東中学校

▶授業者:辻井 ほのか ▶校時:3時間目(10:50~11:40) ▶場所:7年3組教室

▶共同立案者:有田 尚子、沼田 英莉、永瀬 千咲、板垣 理史

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	食生活に関するニュースを調べ、自分の食生活の課題を考える。
2	資料を読み、情報を整理し、グループで意見交換をする。
3	グループごとにまとめたことを発表し、自分の食生活の課題を解決するためできることを考える。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

持続可能な食生活の実現に向けて、食生活に関する課題について多面的に考察し、実生活の課題を解決するための方法を工夫することができる。

単元を貫く問い合わせ

持続可能な食生活を実現するために、どのような工夫ができるのだろう。

単元目標に迫るための手立て

複数の視点(食品の安全、食料自給率、食品の廃棄、食品の輸送とエネルギー)から持続可能な食生活について考えることで、自分の生活における課題に対するよりよい解決方法を考えられるようになる。

本時の学習目標

持続可能な食生活を実現するための工夫について考えることができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ◎ICT 利活用の工夫 ☆評価
2	1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。 課題:持続可能な食生活を実現するためには、どのような工夫をすることができるのだろう。	○ループリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようにする。
	2 グループごとに課題解決をする。 ・グループ内で下の①~④の担当を決め、4種類の資料を読む。 ①食品の安全 ②食料自給率 ③食品の廃棄 ④食品の輸送 ・同じ資料の生徒で集まり、意見交換する。 ①食品の表示をよく見ることが大切だ。 ②地産地消を意識することが大切だ。 ・話し合ったことを参考にし、自分の考えをCanvaにまとめる。	◎話し合ったことをPadletに投稿し、Canvaにまとめる時に参照できるようする。 ☆持続可能な食生活を実現するための工夫について考えている。(観察・Canva) ○工夫について考えることが困難な生徒には、前時までの学習内容や自分の生活と資料を結び付けて考えるように助言をする。 ◎Canvaのプレゼンシートを共有し、他のグループの内容を参照できるようする。 ◎スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようする。
	3 本時の振り返りをする。	

Web サイトを作つて伝えたい！

▶授業者:永瀬 千咲 ▶校時:3時間目(10:50~11:40) ▶場所:7年4組教室

▶共同立案者: 板垣 理史、辻井 ほのか、沼田 英莉、有田 尚子

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	レッスンに取り組み、Web サイトの制作方法を理解する。
2	オリジナルの Web サイトを構想し、制作する。
3	互いに作品を公開し、改善点を考える。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

自分の考えや思いを発信する方法の1つである Web サイトの制作方法を理解し、オリジナルの Web サイトを制作することができる。



単元を貫く問い合わせ

自分の考えや思いを分かりやすく発信するためには、どのような工夫をして Web サイトを制作したらよいのだろう。



単元目標に迫るための手立て

「Life is Tech! Lesson」を用いて、進度・形態を各自が選択することで、対話が生まれやすいようにする。

本時の学習目標

理想の Web サイトをつくるためには、どのようなコードを入力すればよいのかを考えて、制作・修正をすることができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ◎ICT 利活用の工夫 ☆評価
2	<p>1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。 ・誰に、何を伝えたいのか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 課題:どのようなコードを入力すれば自分の理想の Web サイトを作ることができるのだろう。 </div> <p>2 前時に作成した構想図をもとに、Web サイトの制作を行う。 ・これまでの学習を振り返り、プログラムを考える。 ・グッドモデルや友達の制作を参考にして改善を行う。</p>	<p>○ループリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようにする。 ◎誰に何を伝えるのか、ハルシネーションやファクトチェック、著作権などを確認する。</p> <p>○前時までの学習で登場したコードの一覧を用意し、いつでも確認できるようにしておく。 ◎「Life is tech! Lesson」で生徒の進歩状況を常に把握し、個に応じた声かけをするようする。</p> <p>☆理想の Web サイトをつくるためには、どのようなコードを入力すればよいのかを考えて、制作・修正をしている。 (観察・Life is tech! Lesson)</p> <p>○コードを入力することができない生徒には、グッドモデルを紹介し、次の作業に取り組むことができるようする。 ◎プログラムの書き方や修正方法に困った際は、生成 AI を活用してヒントを得るよう促す</p> <p>○スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようする。</p>
	3 本時の振り返りをする。	

平行と合同

第8学年 数学

つくば市立竹園東中学校
つくば市立吾妻中学校
春日学園義務教育学校

▶授業者:T₁小神野 真人 T₂山田 祐見、渕上 公晴、野中 大河 ▶校時: 3 時間目(10:50~11:40)

▶場所:8年1組教室、多目的室 ▶共同立案者:蓮見 俊之、板垣 理史、田中 里那、トリッグス 淳子、太田 真輝

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	図形を操作して、見いだした性質を論理的に説明する。
2	図形を変更し、見いだした性質を論理的に説明する。また、その性質を一般化する。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

図形の性質を基に平行や合同の関係を捉え、筋道を立てて説明する力を身に付ける。

単元を貫く問い合わせ

どのようにすれば、図形のかたちが同じであることや見いだした図形の性質を説明できるのだろうか。

単元目標に迫るための手立て

- ・作図や操作、日常の事例を通して平行や合同の意味を直感的に捉え、図形の性質を根拠に筋道立てで説明することができるようになる。
- ・オンラインで3校をつなぎ、多様な意見に触れられるようにする。

本時の学習目標

図形の性質について予想し、予想した性質について証明したり、証明した事柄を用いて新たな性質を見いだしたりすることができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ○ICT 利活用の工夫 ☆評価
1	<p>I 問題を考える。</p> <p>正三角形 ABC があり、辺 BC 上に点 P がある。また、BP=CQ となるように辺 CA 上に点 Q をとる。AP と BQ の交点を点 O とするとき、∠BOP が最も大きくなるのは、点 P がどの位置にあるときでしょうか。</p> <p>2 学校ごとに説明を考える。</p> <p>①△ABP と△BCQ の合同の証明をする。</p> <p>②ア) 三角形の外角を利用 イ) 矢じり型 AOBC を利用 ウ) 拡大図、縮図の関係を利用</p> <p>3 学校ごとにどんな考え方があったか共有する。</p>	<p>○GeoGebra を活用し、図形を操作できるようにすることで、視覚的に角の大きさを捉えることができるようになる。</p> <p>○どの三角形が合同であるかを証明すればよいのかわからない生徒には、合同に見える三角形を聞くことで思考を促す。(T2)</p>
2 (本時)	<p>I 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>課題: どのようにすれば、∠BOP の大きさを説明することができるだろうか。</p> <p>2 前時の問題を数学的に発展させた課題を学校ごとにそれぞれ考える。</p> <p>①正方形について考える(春日学園) ②正五角形について考える(竹園東) ③正六角形について考える(吾妻)</p> <p>3 ①~③について全体で共有する。</p> <p>4 正n角形にするとどうなるのか考える。</p> <p>5 振り返りをする。</p>	<p>○GeoGebra を用いて図形を自由に動かしながら角の大きさを何度も確認できるようにすることで、視覚的な気づきを促し、角の大きさや関係性への理解につながるようにする。</p> <p>○どのように考えればよいかわからない生徒には、三角形のときにどのように考えたか振り返るよう声掛けする。(T2)</p> <p>○ブレイクアウトルームを利用し、解き終えた生徒は報告するようにし、発展させて考えるよう声掛けする。</p> <p>○早く終わった生徒には、正八角形や正九角形などについて考えるよう促す。(T2)</p> <p>☆予想した図形の性質を、根拠をもとに説明することができる。(観察・発表)</p> <p>○どうすればよいかわからない生徒には、規則性がないか、正n角形の内角の和や外角の和はどう表せるのか声掛けをする。(T2)</p> <p>○Padlet を活用して本時の振り返りを行う。</p>

※本授業は、指導力の高い教員による授業を市町村内にライブ配信することで、児童生徒に質の高い学びの機会を提供し学力向上を図るとともに、全ての教員の指導力向上を図ることを目的に取組んでいる「いばらき遠隔教育推進事業」の1つです。

武道「剣道」

- ▶授業者:湯原 康元 ▶校時:2・3時間目(9:40~11:40) ▶場所:被服室、武道場
▶共同立案者:橋本 尚樹、志村 克己、手塚 曜咲子、高橋 瞳美、高橋 千重子、室町 直樹

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	単元を通して学ぶことを確認する。
2	ペアやグループで基本動作や基本となる技を練習する。
3	自他やグループの課題を分析し、実践する。
4	基本となる技を用いて、判定試合をする。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

基本動作や基本となる技を用いて、互いに有効打突を目指して判定試合で競い合うことができるようになる。

単元を貫く問い合わせ



基本動作や基本となる技を用いて、互いに有効打突にするためにはどのようなポイントが必要なのだろう。

単元目標に迫るための手立て



模範動画や試合動画を見ながら基本動作や、基本となる技に着目し、生徒同士の対話から有効打突のポイントを理解することができるようになる。

本時の学習目標

グループごとに試合動画を見て振り返りながら、基本動作や基本となる技を分析する学習場面を設定することにより、自他の課題を理解することができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ◎ICT 利活用の工夫 ☆評価
3	<p>1 本時の学習内容を確認する。 課題:より美しく基本動作や打突をするためには、どうしたらよいのだろう。</p> <p>2 グループごとに分析する。 ①前回の判定試合の動画を観る。 ②模範動画を見る。 ③グループのワークシートに入力する。</p> <p>3 武道場に移動する。</p> <p>4 グループごとに練習する。</p> <p>5 グループ対抗で判定試合をする。</p> <p>6 面を着用し、「試合」か「型」の練習を選択して実施する。</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ループリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようになる。</p> <p>○チェックするポイントがわからない生徒には、判定試合を参考にするよう助言する。</p> <p>◎Canvaで共有したワークシートに入力することで、他のグループと比較して話すことができるようになる。</p> <p>☆試合動画を見ながら、基本動作や基本となる技を分析し、自他の課題を理解することができる。(観察・ワークシート)</p> <p>○全員が自信をもって判定することができるよう、事前に判定基準を明確にしておく。</p> <p>○生徒が自分に合った練習を選択することができるようになる。</p> <p>◎スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようになる。</p>

▶授業者:大槻 綾也 ▶校時:2・3時間目(9:40~11:40) ▶場所:体育館

▶共同立案者:橋本 尚樹、志村 克己、手塚 日咲子、高橋 瞳美、高橋 千重子、市村 靖子、原田 祥子

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	基礎技能や単元を通して学ぶことを確認する。
2	グループを編成し、改善点を考え練習する。
3	グループの改善点に対して仮説を立て、分析をして練習内容を考える。
4	基礎技能を活用しラリー続け、ゲームを行う。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

ボールを落とさずにラリーを続けたり、相手の打球に備えて準備姿勢を取ったりすることができる。



単元を貫く問い合わせ

ボールを落とさないようにするには、どのようなことが必要なのだろう。



単元目標に迫るために手立て

グループの中で役割を決め、それぞれの立場から分析することでボールを落とさない練習方法を考えられるようになる。また、分析シートを活用することで、データからも考えることができるようになる。

本時の学習目標

グループの改善点を意識して練習・試合を行い、試合を分析する活動から各グループが練習内容を設定することにより、ボールを落とさずにラリーを続けるために必要なことについて考えることができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ○ICT 利活用の工夫 ☆評価
3	<p>1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。 課題:負けないためには、どこをパワーアップさせればよいのだろう。</p> <p>2 改善点を見つけて、練習を行う。</p> <p>3 ゲームを行う。</p> <p>4 各グループで試合を分析し、その結果から改善点や練習内容を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人の間にボールが落ちていることが多い。 → 声を出せるような練習をする。 ・最初に触る人のミスが多い。 → サーブレシーブを練習する。 ・最初に触る人のミスは少ないが、その後が続かない。 → 円陣パスやラリーゲームを行う。 <p>5 改善点を見つけて、練習を行う。</p> <p>6 再度ゲームを行う。</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ルーブリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○改善点に気付けないチームには、前時までの動画や分析結果を参考にするように声をかける。</p> <p>○ゲームの動きを撮影したり、分析シートで分析をしたりする。</p> <p>○分析データの結果を Teams や Padlet で共有し、複数の情報を確認できるようになる。</p> <p>☆分析結果や練習内容からボールを落とさずにラリーを続けるために必要なことを考えている。 (観察・学習カード)</p> <p>○話合いが円滑に進まないグループには、「どうしたらよいのか」、「何をしたらよいのか」を問い合わせ、練習メニューを考えられるように助言する。</p> <p>○Teams で練習メニューを共有し、改善したいことについた練習を選択できるようになる。</p> <p>○スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようになる。</p>

▶授業者:武藤 望 ▶校時:3時間目(10:50~11:40) ▶場所:美術室

▶共同立案者:鈴木 優庸、江見 智子、高村 直子

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	光と生活について考える。
2	生活空間を演出するあかりを考える。
3	材料の特性を生かしてあかりを制作する。
4	完成した作品を鑑賞する。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

材料や光の性質を理解し、生活の中で生きるあかりを工夫するとともに、使う目的や用途から発想し、美しいあかりの作品を構想・制作する。

単元を貫く問い合わせ

どのような工夫をすれば、自分のイメージするあかりを表現することができるのだろう。

単元目標に迫るための手立て

自分の表現したいあかりを制作するための制作方法について、他者と相談をしたり、生成AIを活用したりすることで、よりよい表現方法について創造性を高められるようにする。

本時の学習目標

自分のイメージする「あかり」になるように、材料や用具、技法を選択し、効果的な表現方法を考える。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ○ICT 利活用の工夫 ☆評価
3	<p>1 本時の学習内容を確認する。 課題:自分のイメージする「あかり」を表現するためには、どのような工夫をすると効果的なのだろう。</p> <p>2 アイディアスケッチをもとに、制作をする。 ・ふんわりした光を表現したいから、綿を使ってみよう。 ・紙を切った隙間から光が見えるようにしたい。紙は透けない素材がいいな。</p> <p>3 Padlet に、試していることや分かったこと、悩みなどを投稿する。 ・紙だけだとうまく自立しなかった。 ・竹ひごで支えをつくってみたらどう。 ・数名、発表する。</p> <p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ループリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○様々な素材の材料に触れて考えることができるよう、材料コーナーを設置しておく。</p> <p>☆自分のイメージする「あかり」になるように、材料や用具、技法を選択し、効果的な表現を考えている。(観察、資料、作品)</p> <p>○光のイメージがわきにくい生徒には、簡易暗室を利用するように助言する。</p> <p>○Padlet で、友達の投稿に対して返信をするよう、声をかける。</p> <p>○よいアイディア思い浮かばない生徒には、他者の工夫していることを参考にするよう助言する。</p> <p>○スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようする。</p>

▶授業者:竹町 慧 ▶校時:2 時間目(9:40~10:30) ▶場所:第2理科室

▶共同立案者:小神野 真人、山田 祐見、トリッゲス淳子、田中里那、太田 真輝

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	低気圧のまわりの天気の変化を考える。
2	気温と天気の変化の関係を考える。
3	天気図から、今後の天気の変化を考える。
4	天気予報を発表しよう。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

気象とその変化に関する探究的な学習を通して、天気の変化や日本の天気の特徴を理解する。

単元を貫く問い合わせ



気象要素と天気の変化には、どのような関係があるのだろう。

単元目標に迫るために手立て



身近な地域の天気の変化を予想するためには、どのような科学的根拠が必要になるのか、天気図の画像や気象庁のWebサイトを共有して考え、他者と共有する。

本時の学習目標

天気図から、様々な地点での今後の天気の変化について考える。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ○ICT 利活用の工夫 ☆評価
3	<p>1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p> <p>課題:どのような気象要素に目を向ければ 天気図から天気を予想できるのだろう。</p> <p>2 日本付近の天気図の画像を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の日時の画像を共有し、生徒が日時と場所の条件を選んで考える。 <p>3 選んだ天気図の翌日の予想をグループで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初は1枚の天気図で考え、必要に応じて数日前に天気図も活用できるようにする。 生徒の進度に合わせ、授業当日の天気図から、翌日の天気を考える。 <p>4 各グループの予想を全体で共有する。</p> <p>5 気象庁のWEBサイトを共有し、自分の考えと実際の天気の変化を比較する。</p> <p>6 振り返りを行う。</p>	<p>○ループブリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようにする。</p> <p>☆天気の変化の予想を、科学的な根拠をもとに考察することができている。(観察・資料)</p> <p>○生成AIに画像を読み込み、天気図の特徴を聞けるようする。</p> <p>○生成AIを用いて作成した画像を参考にし、雲の様子や翌日の天気図の予想も立てられるようする。(作成された画像の妥当性についても問い合わせかける。)</p> <p>○Canvaを用いて、クラウド上で他者参照をして考えることができるようする。</p> <p>○根拠を考えることができない生徒には、気象要素を確認するように助言する。</p> <p>○予想通りになったところだけでなく、予想と違う結果になった根拠も考えるよう声をかける。</p> <p>○スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようする。</p>

▶授業者:江見 智子 ▶校時:2時間目(9:40~10:30) ▶場所:第1音楽室

▶共同立案者:高村 直子、鈴木 優庸、武藤 望

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	ギターの基本的な知識を学びながらギターに親しむ。
2	グループのイメージに合わせた効果的な練習を行う。
3	イメージに合った演奏をすることができるように、表現を工夫する。
4	グループごとに発表を行い、感想を全体で共有する。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

生徒が興味のあるギターを使って、音楽に親しみをもち、演奏を通して音楽の楽しさや仲間と音を合わせる喜びを感じることができる。

**単元を貫く問い合わせ**

グループでアンサンブルを行うためには、どのような練習方法を取り入れるとイメージに合った演奏をすることができるのだろう。

**単元目標に迫るために手立て**

個人やグループで進度に応じた練習方法を選べるようにし、生徒同士の対話をしやすくする。

本時の学習目標

グループのイメージに合わせるために、練習方法を工夫しながら演奏を行うことができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ◎ICT 利活用の工夫 ☆評価
2	<p>1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。 課題:どのように練習方法を工夫すれば、イメージに合う演奏をすることができるのだろう。</p> <p>2 グループで選んだ曲や演奏スタイルをギターでどのように表現するのかを考える。 ・自分たちのスタイルに合うような練習をする。 ・演奏スタイル、練習方法の工夫などを発表する。 ・2パートに分かれて演奏するスタイルを選び、各パートで速さを決めて合わせるようにした。 ・ゆっくりとした速さで練習をしている。 ・できないところを繰り返し練習してみた。</p> <p>3 グループごとに練習をする。 ・Padlet の投稿を2グループ紹介する。</p> <p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ループブリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようとする。</p> <p>○グループごとに、演奏曲や演奏スタイルを選べるようにする。 【曲目】:きらきら星、大きな古時計 【演奏スタイル】①主旋律を全員で演奏する。 ②パートに分かれて演奏する。</p> <p>◎MuseScore3 を使い、再生をする際に速度を自由に変化したり、聞きたい部分をリピートして聞いたりすることで、表現方法を考えられるようにする。</p> <p>◎うまくいったことや悩みなどを Padlet に投稿し共有することで、他のグループの演奏スタイルや工夫、練習方法などを参考にできるようにする。</p> <p>☆グループごとに練習方法を工夫して、イメージに合った演奏をすることができた。(観察・Padlet)</p> <p>○練習方法を工夫することができていない生徒には、どのような練習が効果的であるか具体的な方法を示す。</p> <p>◎スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようとする。</p>

好きな仕事か安定か悩んでいる

▶授業者:海老沢 祐成 ▶校時:2時間目(9:40~10:30) ▶場所:9年2組教室

▶共同立案者:原田 祥子、繪幡 龍馬、栗原 令子、小堆 祐輔

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	社会科【経済活動と私たち】の授業内で、将来の自分の家計について考える。
2	自分の就きたい仕事で生活費がまかなえるのかを調べる。
3	教材【たんぽぽ作業所】の学習を通して、働くことの尊さや意義について考える。
4	進路を選択する際に大切にしたいことを他者と共有し考えを深める。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考え、生きていく中で大切にしたいことを他者と共有し考えを深める。

単元を貫く問い合わせ

将来の生き方を選択する時に、どのようなことを大切にするのだろう。

単元目標に迫るための手立て

職業選択をする際に、さまざまな意見にふれられるように、ICTを効果的に活用する。

本時の学習目標

職業選択に関わるさまざまな立場からの意見について考え、勤労の尊さや意義を理解するとともに将来の生き方についての考えを深めることができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ○ICT 利活用の工夫 ☆評価
4	<p>1 職業選択の基準について、好きな仕事か安定かを考える。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>課題:職業を選択する時に、どのようなことを大切にするのだろう</p> <p>3 サークル対話で互いに考えを伝え、自分自身の考えを振り返る。</p> <p>4 職業選択の基準についての互いの考えを共有する。</p> <p>5 職業人のメッセージを聞く。</p> <p>6 他者の意見、職業人のメッセージをふまえ、自分の心と向き合い、自分自身の考えをまとめまる。</p> <p>・自分の優先価値観は家族なので、家族を守るために安定を選ぶ。でも、結婚前は夢を大切にしたい。 ・自分は経済的な幸せより、心の幸せを選択したい。</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>○Canva を活用し、生徒の選択を視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>○相手の意見を否定しないなどのルールを設定し、多様な意見を出すことができるようとする。</p> <p>○テキストマイニングを活用することで、二項対立にならないようにし、様々な意見を尊重するようとする。</p> <p>○職業人からのメッセージを聞くことで、現実味をもつことができるようとする。</p> <p>☆将来の生き方について考えを深めることができる。(観察・Canva)</p> <p>○自分の思いを Canva にまとめ、互いの考えを共有することで、今後のキャリア設計に生かせるようとする。</p> <p>○スクールAIを利用して振り返りを行うことで自分の考えを深められるようとする。</p>

財政と私たち

- ▶授業者:小堆 祐輔 ▶校時:3 時間目(10:50~11:40) ▶場所:9年3組教室
 ▶共同立案者:海老沢 祐成、栗原 令子、繪幡 龍馬、原田 祥子

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	財政政策や税金の役割について理解する。
2	社会保障制度や日本の財政課題について理解する。
3	ある都市の課題を整理する。
4	都市の問題から、予算案を考える。
5	予算案を発表し、話し合う。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

財政や税金についての学習を通して、自分事として持続可能な社会づくりについて考えることができる。



単元を貫く問い合わせ

私たちの社会をよりよくするためには、どのようなことができるのだろう。



単元目標に迫るために手立て

社会をよりよくするために考えたことをクラウド上で共有し、他者参照をすることができるようにして、多様な考えにふれることができるようにする。

本時の学習目標

誰もが安心して生活できる都市を目指して、根拠をもとに予算案を考えることができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ◎ICT 利活用の工夫 ☆評価
4	<p>1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p> <p>課題:どのように予算を立てれば、みんなが幸せに生活することができるのだろう。</p> <p>2 世代ごとに集まり、予算案を考える。</p> <p>【世代】 ・子育て世代・高齢者世代</p> <p>【予算案の例】 ・教育費:20 億円・土木費:10 億円</p> <p>3 グループで中間検証をする。 ・効率と公正 ・どこかに重点的になりすぎていないか</p> <p>4 再び予算案を考える。</p> <p>5 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ループリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○Canva でワークシートを共有し、他者参照をすることができるようにする。</p> <p>○世代ごとに集まることで、より意見が深まるよう促す。</p> <p>☆よりよい社会をつくるためにできることについて、根拠をもとに考えを深めている。(観察・資料)</p> <p>○一つの世代の意見でしか考えていない生徒には、よりよい社会をつくるために、多面的・多角的に物事を見るように声をかける。</p> <p>○スクール生成AIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようする。</p>

おくのほそ道

▶授業者:馬込 瞳美 ▶校時:3時間目(10:50~11:40) ▶場所:9年4組教室

▶共同立案者:藤本 美智子、市村 靖子、蓮見 俊之、川俣 真澄

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	冒頭部分を読み、語句や内容について捉える。
2	「平泉」の場面を読み、語句や内容について捉える。
3	「光堂」の場面を読み、語句や内容を捉える。これまでの紀行文の構成を理解する。
4	「おくのほそ道」の構成を参考にし、紀行文を書く。
5	書いた紀行文を古文に直し、紀行文を読み合う。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

当時の状況や作者の心情に注意して読んだり、構成や表現の特徴を捉えたりすることで、古典の世界に親しむことができる。



単元を貫く問い合わせ

芭蕉は、どのようなことを考えて紀行文を作ったのだろう。



単元目標に迫るための手立て

古典作品の中に表現されている作者の心情や構成を理解し、「おくのほそ道」の構成を参考にした紀行文を作成し、生成AIを使って古文に直す活動を通して、古典に親しむ態度を育てる。

本時の学習目標

「おくのほそ道」の構成や表現の特徴に着目し、紀行文を作成することができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ○ICT 利活用の工夫 ☆評価
5	<p>1 本時の学習課題を確認する。 課題:「松尾芭蕉」のような紀行文にするためには、どのような工夫をすればよいのだろう。</p> <p>2 紀行文を古文に直す際の注意点を確認する。 ※「松尾芭蕉」らしさに着目 ・対句表現や漢文調のリズム ・文章と俳句の組み合わせ ・歴史や人間の営みへの考え方</p> <p>3 生成AIを用いて紀行文を古文に直し、自分が書いた現代文と見直しする。</p> <p>4 古文を友達と読み合ってアドバイスし合う。</p> <p>5 完成した作品をPadletに投稿し、読み合う。</p> <p>6 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ルーブリックを提示し、単元を通しての学びについて見通しをもつことができるようとする。</p> <p>○生成AIを使って古文に直す際に、自分が工夫した構成や表現の特徴が損なわれないように、前時に意識した「松尾芭蕉」らしさについて再確認する。</p> <p>○生成AIを用いて古文に直し、自分が書いた現代文との見直しが瞬時にできるようにする。</p> <p>○見直す際には、使われている単語などの意味がきちんと合っているか、伝えたいことや地の文と俳句の組み合わせが適切かどうかなどの観点を与える。</p> <p>☆「おくのほそ道」の構成や表現の特徴に着目し、古文に親しみをもって紀行文を作成している。(Padlet)</p> <p>○Padletの地図機能を使い、他社の紀行文も見られるようにすることで、古典により親しみをもてるようにする。</p> <p>○スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようとする。</p>

Unit Activity

地球市民としての抱負を伝え合おう

第9学年 英語

つくば市立竹園東中学校

▶授業者:藤本 美智子 ▶校時:2時間目(9:40~10:30) ▶場所:9年5組教室

▶共同立案者:川俣 真澄、蓮見 俊之、馬込 瞳美、市村 靖子

学習計画(本時は太枠)

時	活動内容
1	世界の現状について調べ、自分がとるべき行動について考えを深める。
2	“What does it mean to be a global citizen?”という問い合わせについて英語で考えをまとめる。
3	発表練習をする。 発表しあいの考えを共有する。

単元目標(単元を通して身に付けさせたいこと)

国を超えて助け合うことの大切さを知り、仮定法と主語を説明する関係代名詞を用いて願いや思いを伝えることができる。

単元を貫く問い合わせ

国を超えて助け合うことの大切さと、地球市民の1人としての行動について、自分自身の抱負をどのような表現を用いれば効果的に伝えることができるのだろう。

単元目標に迫るための手立て

生成AIのフィードバックを効果的に利用し、原稿の校正と発表練習をし、自分の思いを伝わりやすくする。

本時の学習目標

“What does it mean to be a global citizen?”という問い合わせについて、仮定法や主語を説明する関係代名詞を用いて、国を超えて助け合うことの大切さを述べることができる。

本時の学習計画

時	学習活動・内容	○支援のポイント ○ICT 利活用の工夫 ☆評価
3	<p>1 Greeting & Small Talk</p> <p>2 Warm Up</p> <p>3 本時の学習内容を確認する。 課題 How do you present your idea about this question “What does it mean to be a global citizen?”</p> <p>4 提出された動画でグッドモデルを確認する。</p> <p>5 プレゼンテーション練習と動画撮影を行う。 ・個人や友達とプレゼンを確認する。 ・JTA や ALT にアドバイスをもらう。 ・共有されている動画を参照する。</p> <p>・現状 Global warming is progressing. ・自分の行動 ·try to save electricity ·go on foot or by bicycle</p> <p>6 本時の振り返りをする。 短文のライティングを通して、仮定法の再確認をする。</p>	<p>○スクールAIとグリーティングの後スマートトークをすることを促す。</p> <p>○デジタル教科書で速読、リスニング、スピーキングに慣れるようにする。</p> <p>○ルーブリックを提示し、単元を通した学びについて見通しをもてるようとする。</p> <p>○友達の動画を参照し、自身のプレゼン内容を振り返るよう促す。</p> <p>○ペアや個人でプレゼンテーション練習と動画撮影をして発表内容を工夫するよう促す。</p> <p>☆仮定法や主語を説明する関係代名詞を用いて、国を超えて助け合うことの大切さを述べながら、次の条件を満たして話している。</p> <p>1. 地球の現状について説明している。 2. 現状について自分が取っていきたい行動について伝えている。(観察・資料)</p> <p>○感情を込めて伝えることができていない生徒には、アイコンタクト・発音・イントネーションや間の取り方について助言をする。</p> <p>○スクールAIのフィードバックをもとに、次時の活動に見通しをもつことができるようする。</p>